

会 議 録

会 議 名	第5回森岡地区拠点施設基本構想・基本計画検討委員会	
開 催 日 時	令和8年9月3日(木) 午前10時から午前11時まで	
開 催 場 所	東浦町役場 西会議室1	
出 席 者	委 員	小松尚氏（委員長）、鈴木賢一氏（副委員長）、榊原政策課長、中村財政経営課長、内田人事課長、山本防災課長、村上ふくし課長、新家子育て支援課長、青木教育課長、前床住民自治課長、浅田環境課長、戸田都市デザイン課長、川瀬建築施設課長、田中建設企画課長、静間土木管理課長
	事務局	政策企画部 鈴木部長、鈴木次長 財政経営課 中村課長（兼務）、久野課長補佐兼係長、稲丸主事
欠 席 者	委 員	教育課 岩本主幹兼指導主事
議 題 (公開又は非公開の別)	1 あいさつ 2 前回検討委員会の意見への対応について	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)		
傍聴者の数	0名	
審 議 内 容 (概 要)	・政策企画部長から挨拶 ・委員の出席及び会議の成立を確認 ・傍聴者の確認 議題の審議内容は、下記のとおり	
備 考	—	

1 あいさつ (公開)
鈴木政策企画部長より挨拶。

2 前回検討委員会の意見への対応について（公開）

事務局より第5回検討委員会での意見対応等について説明し、意見交換を行った。

◇委員長

前回委員会への意見に対して適切に対応されていると感じた。配置・動線計画案についても、2案への収束は妥当だと感じた。5つの変更点について、意見や確認したい事項などがあれば発言をお願いしたい。

また、前回委員会で、民設民営保育園と複合施設の整備を一体的な事業とすることについて意見があったため、追加のヒアリング結果について共有いただきたい。

◆事務局

本事業への参画の意思を持っている建設事業者等に民設民営保育園との一体的な発注となった場合、参入可能性に影響があるか確認をした。ほとんどの事業者から保育園との一体発注となる場合には、特にチーム組成の観点で参加が難しいという意見が得られたため、本事業とは切り離して検討していくこととした。

◇委員

P.23 及び P.25 の図について、保育園は民設民営であることを明示した方が良い。地盤の高さが低い部分はどの程度の高低差があるのか、数値でも示されていると分かりやすい。また、既存の緑地を積極的に残す姿勢として表現しているのか、現状として表現しているだけなのか。

◆事務局

ワークショップの中で既存樹木を活かした提案があったほか、グラウンドの砂塵等の緩衝材としても必要であるため、事務局としては残す方向で考えている。

◇委員長

P.23 及び P.25 の図に既存樹木であることを表現し、保存・活用していく意図を文章中で表現できると良い。

◇委員

今後、土地区画整理事業で造成する保留地について、高低差を理由に配置を決めるのはどうか。費用が掛かることが2段造成とする理由のように見えてしまう。

◇委員長

町として費用を考慮することは、合理的な判断であると考えているのでは。

◆事務局

高低差を埋めるような大規模な造成を行うと町のコストがかさんでしまうため、土地区画整理組合から渡される保留地の高低差をあらかじめ受け入れた上で、その起伏を生かして造成費を抑えた計画とする必要がある。

◇委員長

高低差があることを前提条件として整理したうえで、無駄なく使っていくにはどのようにすべき

かを検討している。費用だけではなく、防災性や4 mの擁壁が整備されることによる周辺景観への影響など考慮した説明も可能である。既存の土地の形状や性質を変えない開発とするということを重要事項と考えるのであれば説明がつくと考える。

◇委員

ワークショップの意見を受けて、配置を計画してきた経緯がある中で、町としての配置を提示する際に高低差があることが前提条件のように扱われていてよいのか気になった。

◇委員長

造成を変更することに計画全体でメリットがあるのであれば検討の余地があるが、特にない中で造成について改めて検討する必要性はないと考える。

◇委員

P.21 の配置において重視する観点について唐突感があった。コンセプトや基本理念からつながっている表現ができると良いと考える。理由があればこのままでもよい。

◇委員長

基本理念等は、理想的な部分が表現されている。一方で、学習の継続を例に考えた場合、仮校舎を整備することも可能性としてはあるが、費用がかかるうえ、施設としての質も低くなる可能性があるため前提とはしないという具体的な条件の検討は別途必要になる。

◆事務局

配置を考えていく際に、バックグラウンドとして検討しなくてはならない条件として3つの条件を提示しているものである。

◇委員長

重視する点という表現より留意点とする方が馴染む可能性がある。P.20 自体が配置の考え方であり、その考え方を踏まえて計画敷地に落とし込む際の留意すべき点として説明し、文言などを精査いただけると良い。

◇委員

最終的な計画書としては、図表番号をつけることが一般的と思われるが、検討いただきたい。

◇委員

前回と大きく変わっているのはA案・B案の整理の仕方だと思うが、今回は計画書に記載している流れのみ検討し、前回のような比較はしていないのか。

◆事務局

基本的には3つの視点を基にどのようなパターンがあるのかを事務局内で比較検討したうえで、優先度を踏まえて設定したものである。

◆事務局

今年度に残り2回の委員会を予定しており、次回は10月1日を予定している。